

玉堂星中殺

玉堂星と云う星の性情には「知性」「学問」「智恵」「伝統」「古典」そして「慈愛」「従順」などという意味合があります。同じ智恵の星でも、龍高星と異なり実に静かな高貴さがあります。

これが中殺されるということは、玉堂星世界が不自然融合空間エネルギーを形成している状態ですから、従順さと反発の渦巻く心理世界を形成する事になるのです。

玉堂星の世界は、父母の縁厚く両親のもとで平穩に過ごせる天運を所有しているのですが、中殺現象によって変形した平穩さとなるのであります。

それは、天性に持ち合わせている従順さと肉親思いの心情が父母に対して通じない状態をつくり出す事になるのです。

その状態が親子であっても異質なエネルギーを所有し合う親子関係が生まれ、子供の心が親に通じず、親の心が子供に通じない形が生じてくるのです。

それでいて親と子のえんは厚く、他人の目から見れば仲の良い親子に写るのであります。

ところが、そういう仲の良いケースばかりではなくて、その逆のようなケースもあるのです。たとえば、親子の中が極度に悪いにもかかわらず、離れて生活する事すら出来ずに、争いながら常に同居状態を形成する場合も出て来るのであります。

このような状態が親孝行をすればするほど、結果的に空しい思いをしたり、それでいて両親の方に異変が生じれば、また親のために手助けをしたくなるわけです。

本人にしてみれば親孝行と思ってした行動が逆に悪く受け取られたりするのです。

その状態が時として親のために夫婦仲を悪くさせられたり、結婚後の本人の家庭生活を壊されたりもするのです。

特に女性が、この玉堂星中殺を持っていますと、こうした不自然な現象が大きく現われてくるようです。

そのために、玉堂星中殺をもっている女性は、一家の犠牲となって結婚の期を逃したり、若年にして親きょうだいのために働いたりするケースが見られるのです。(しかし結果的には「よろこび」とはならず、空虚しい思いが残るのであります)

玉堂星の世界は「智恵」の世界であり「古典的な創造」の世界でもあるのです。

そこに幼少期より頭脳の良さがあらわれ、学業においても好成績をもたらすのであります。

その「知性」が中現象にはばまれ、世の中の主流に入る事が出来ません。たとえば、小・中・高校と続いて好成績を治めた子供が、最後の大学受験等に際しては実力が発揮出来ず、希望校へ進む事が出来ないという状態があらわれるのです。(頭脳はとても優秀だけれど、世間一般の基準である試験にはうまく活かすことが出来ないのです。ユニークな答案を書いたり、あまり深く考え過ぎて違った意味の答案を書いたりして合格のチャンスを逃してしまう事になるのです。すべてがそうですから世間一般の主流に入る事が出来なくなるのです。)

玉堂星中殺をもっている人は、いつも新しいユニークな考え方を発表するのですが、なかなか一般受けされず、時流に乗る事が出来ないのです。必然、龍高星的な反主流的な立場に身をおくことになる運命が準備されることにもなってくるわけです。お医者さんのなかには、よくこういったケースを散見しますが、権威のある大学では認められずに外国で認められたり、町医者になったりする宿命をもっているのです。

そこに生まれるものは一種の開拓精神であり、次の世代のために創造する新しい精神世界でもあるのです。(こういう宿命をもった人の研究には、後世で認められたりする素晴らしいものがあるのです。それを算命学では「在野の学者」と呼んでいるのです。)

玉堂星中殺世界が所有している「知恵」は玉堂星本来の知恵の範囲を越え、相当に広い「視野」と「思索範囲」を持ち合わせているのですが、既成の学問世界に進めば学会の異端者となり、主流からの「はみだし者」となるのです。

それは、学問のみにとどまらず、多種多様の仕事の世界において他人の考えが及ばないようなアイデアと工夫を生み出すことが出来るのです。

そこに異彩を発揮する企画者やプランナーを輩出することになりますから、会社でもこういう人を企画者にすると伸びます。

こうした玉堂星中殺者の行動は実に敏速であり、止まる事を知らない程なのです。

玉堂星エネルギーは本来ゆっくりとしたペースなのでありますが、中殺現象が加わるために、その速度が増加するのです。

勿論進む事も敏速なのですが、退く事も敏速です。それだけに、回りの者から見れば玉堂星中殺者の行動は「逃げ上手」と目に写ることがありますけれど、それは玉堂星中殺者が相手や回りの状況を敏感に察知する術を心得ているからであって、その感性が玉堂星中殺者の最大利点の一つなのです。

しかし、守りに関して云えばあまり上手な方とは言えないのです。…何故ともうしますと、多種多様な創造力が同時に働くために、常に創造力を発揮し続けていなければ、自分自身が満足できないのです。

そこに中殺現象が不自然融合世界を形成しているものですから、創造したものにたいして長い時間の満足が得られず、自分自身の意図するものとは違った世界が形成されてくるのです。

龍高星が破壊へ向かって行くのに反して玉堂星中殺は、一つの創造から次の創造へと移行していくのです。その為に、守る事が出来にくくなるのです。それだけに、「外面の柔・内面の攻撃は常に休息がない」中殺世界を構成しているのです。